

関係各位

熊本県保健環境科学研究所長

第21回熊本県保健環境科学研究所研究発表会の開催について
(御案内)

厳冬の候、ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。

当研究所の活動につきましては、日ごろから御理解、御協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、当研究所では、新型コロナウイルス感染症対応等のため中断しておりました標記発表会を、5年ぶりに下記のとおり開催いたします。日頃の研究成果を研究員が発表しますので、皆様の参加をお待ちしております。

併せて、関係者の皆様にも御周知いただきますようよろしくお願いいたします。

なお、準備の都合上、参加いただける場合は事前に申込みいただきますようお願いいたします。

記

- 1 日時 令和7年（2025年）2月28日（金）
午後1時30分～午後5時
※受付及びポスター展示は、正午から行います
- 2 場所 宇土市栗崎町1240-1
熊本県保健環境科学研究所 2階講堂
- 3 内容等
 - (1) 研究発表 6題
 - (2) ポスター展示詳細は、添付のチラシをご覧ください。

- 4 申込方法
QRコードまたは
URLから申込ください。



URL (インターネット) <https://logoform.jp/f/9E2ne>

URL (LGWAN) <https://tb.logoform.st-japan.asp.lgwan.jp/f/9E2ne>

問合せ先：熊本県保健環境科学研究所総務課

TEL：0964-23-5771 FAX：0964-23-5260

E.mail：hokanken@pref.kumamoto.lg.jp

第21回 熊本県保健環境科学研究所 研究発表会

熊本県保健環境科学研究所では、県民の安心安全な生活を守るため、病原体や食品中の化学物質の検査や解析、大気汚染や水質汚濁の調査や研究を行っています。

このたび、新型コロナウイルス感染症対応のため中断しておりました研究発表会を、5年ぶりに開催します。日頃の研究成果を研究員が発表します。

皆様の御参加をお待ちしております。

参加無料
だモン!



日時：令和7年2月28日（金）13:30～17:00

場所：熊本県保健環境科学研究所 2階講堂

内容：研究発表6題（詳細は裏面をご覧ください）

参加申込方法①

下のQRコードまたはURLから、所属・会社名、氏名、メールアドレスを入力し送信してください。



URL (インターネット)
<https://logoform.jp/f/9E2ne>

URL (LGWAN) ※行政関係者
<https://tb.logoform.st-japan.asp.lgwan.jp/f/9E2ne>

QRコード (インターネット)

参加申込方法②

所属・会社名、氏名、連絡先（メールアドレスや電話等）を明記し、送信してください。

E-mail:hokanken@pref.kumamoto.lg.jp

FAX:0964-23-5260 ※①②とも2/18〆切

アクセス



住所：熊本県宇土市栗崎町1240-1

交通案内

- 電車・タクシー JR宇土駅下車 タクシーで10分
- 車 松橋インターより車で15分

【問い合わせ】熊本県保健環境科学研究所 総務課

TEL 0964-23-5771 E-mail:hokanken@pref.kumamoto.lg.jp

第21回熊本県保健環境科学研究所研究発表会 要旨(概要)

過去10年間の熊本県内における下痢症ウイルス検出状況について

微生物科学部 笠 純華

下痢症の原因となるウイルスは、ノロウイルス、サポウイルス、アデノウイルスなど様々である。当所で行っている下痢症ウイルス発生動向調査においても、多様なウイルスが検出されている。

今回は、過去10年間の熊本県内において、感染症発生動向調査(小児科定点)と有症苦情・食中毒事例で検出された下痢症ウイルスについて報告する。

畜水産物中残留農薬一斉分析法の検討

生活化学部 門田 健太郎

農薬は家畜飼料や農薬で汚染された水を介して畜産物に移行・残留することが懸念されており、畜水産物中の残留農薬の分析を行う必要性が増している。今回、当所で開発した農産物における残留農薬一斉分析法(溶媒抽出-LC/MS/MS法及びSFE-GC/MS/MS法)を畜水産物に適用できるか検証するため、「食品中に残留する農薬等に関する試験法の妥当性評価ガイドライン」に沿った妥当性評価試験を行ったので、結果について報告する。

試験法、対象品目数(品目名)、分析対象農薬数は以下のとおり。

①溶媒抽出-LC/MS/MS法、5品目(牛肉、豚肉、ぶり、鶏卵、はちみつ)、221化合物

②SFE-GC/MS/MS法、5品目(牛肉、ぶり、鶏肉、鶏卵、はちみつ)、278化合物

食品中の残留農薬検査結果(2016年度～2023年度)

生活化学部 田村 香菜

食品中に残留する農薬が人への健康に害を及ぼすことのないよう、原則全ての農薬は、食品中への残留基準が設定されている。当所では、独自に開発した一斉分析法により、LC/MS/MS及びGC/MS/MSを用いて県内に流通している農産物等の残留農薬検査を継続的に実施している。

今回、農産物等の残留農薬の検出状況を把握するため、2016年度から2023年度までの8年間の調査結果をまとめたので報告する。

熊本県内における2021年春季の光化学オキシダント高濃度事例の解析

大気科学部 三井 浩揮

光化学オキシダント(Ox)は全国・県内ともに環境基準達成率が極めて低く、大気環境行政上の重要な課題となっている。

本研究では2021年5月29日～6月1日にかけて熊本県で観測されたOx高濃度事例を対象に、大気汚染常時監視測定局の観測データを用いて、日内変動に着目した解析を行ったので結果を報告する。

特定酵素基質寒天培地法による事業場大腸菌数の測定

水質科学部 永田 武史

水質汚濁における糞便性汚染の指標として、令和7年度より大腸菌群数に代わって糞便性大腸菌のみを対象にした大腸菌数が指標となり、水質汚濁防止法に基づく事業場の排水基準も改正される。

今回、複数の事業場排水について特定酵素基質寒天培地を用いた大腸菌数の分析を行い、大腸菌群数との比較を行った。その結果等について報告する。

土地利用情報を活用した河川水質の把握の検討

水質科学部 小原 彬生

水質汚濁防止法に基づく公共用水域の常時監視は基準項目が増加する中、限られた予算、人員で業務を行うため効率が求められている。そこで本研究では河川の環境基準点と水域の土地利用に注目した解析を行い、河川水質の汚濁評価として活用できるか検討を行った。検討の結果、水域における農地や市街地の割合とBODやSSの値に関係があることが示唆された。

※当日は、12時から所内にてポスター展示も行い研究員が内容を解説する予定です。
※内容等は変更になる場合がございます。